

名古屋大学 COI-NEXT マイモビリティ共創拠点 × NAGOFES2024 シンポジウム
モビリティ・イノベーションがまちを変える～進化し続けるエキ・シロ地区～

円頓寺・四間道界隈のまちづくりの系譜と今後の展望

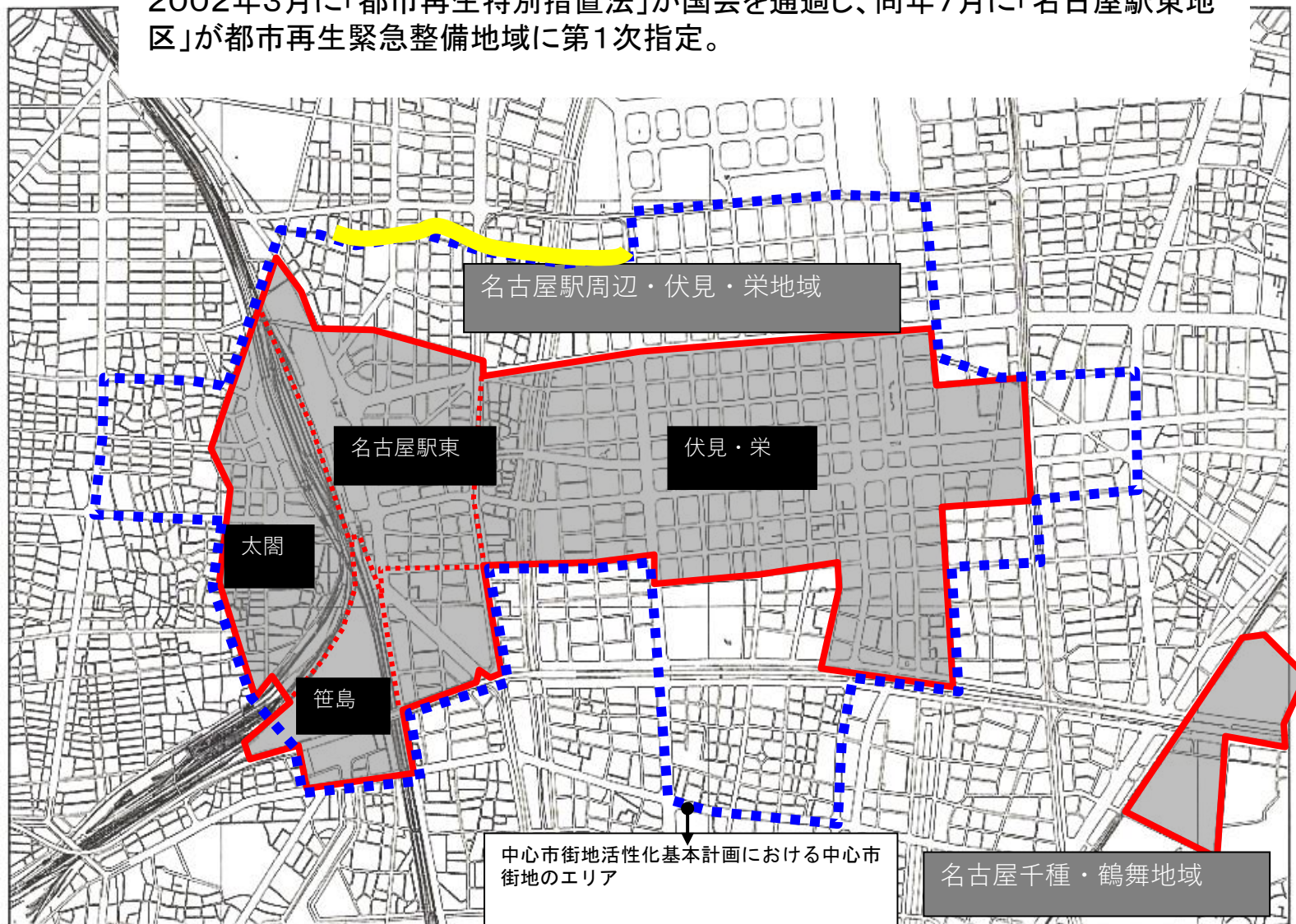


藤澤徹
アルカダッシュ株式会社 代表

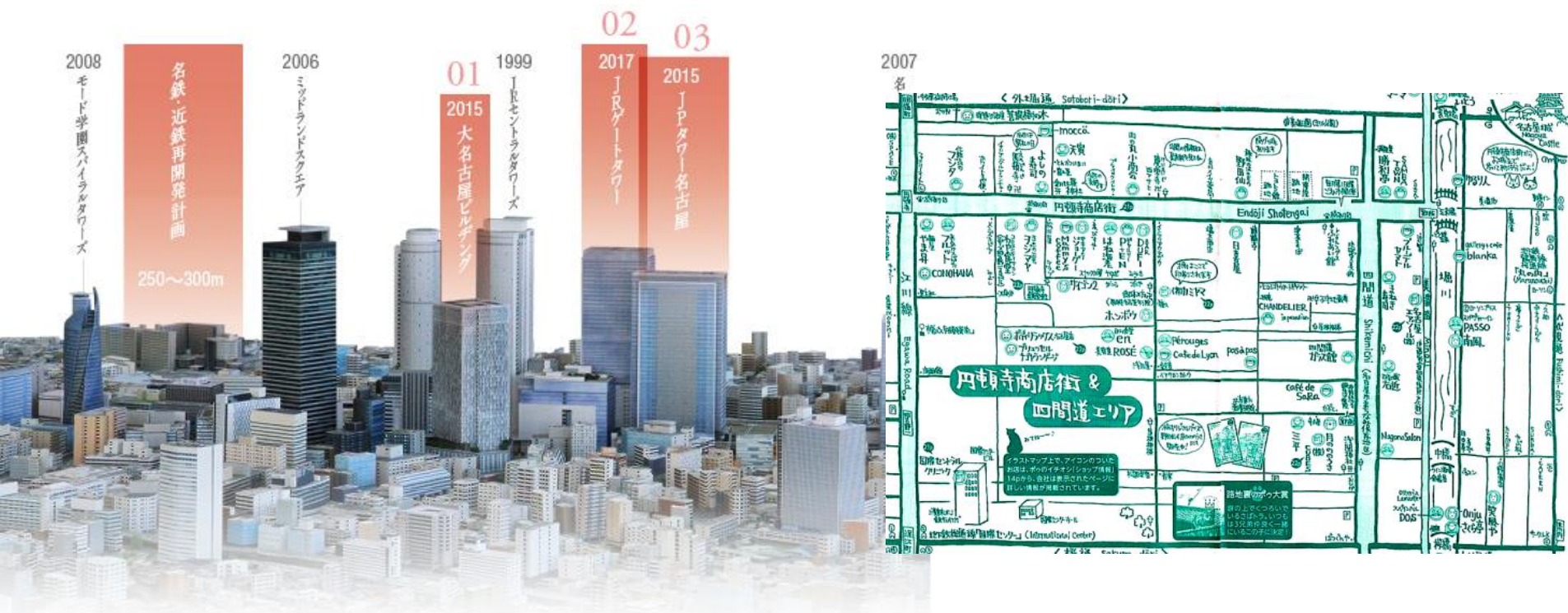
博士(工学)
技術士(都市及び地方計画)
宅地建物取引士

名古屋駅のまちづくり

2002年3月に「都市再生特別措置法」が国会を通過し、同年7月に「名古屋駅東地区」が都市再生緊急整備地域に第1次指定。



当該地区



高層ビルが立ち並ぶ名古屋駅と名古屋城の間にある丸頓寺・四間道・那古野界隈は、戦災による被害が少なかったエリアで、蔵や町屋、屋根神等をはじめとする歴史的建造物が残っており、堀川に面する四間道地区は、1986年6月には、名古屋市の「町並み保存地区」に指定されている。地区の中には、県指定文化財の江戸期の建物等があり、地区外にも身近な歴史的建造物が数多く残っている。近年、こうした地域資産を活かした取り組みが増えている。下町情緒たっぷりの商店街を中心に情報誌発行、空き店舗仲介、郷土史研究等のまちづくり活動が活発に行われている。

「町並み保存地区」

しげみち
○四間道地区（西区） 約2.8ヘクタール



四間道地区は慶長15年(1610)に始まった清須越しにともなうにつくられた商人町で、堀川の水運を利用して隆盛を誇った清須越し商人の栄華の跡である土蔵群と町家が城下町の面影を残しています。



- 中小田井地区（西区） 約2.8ヘクタール
- 白壁・主税・撞木地区（東区）約14.3ヘクタール
- 有松地区（緑区）約19.5ヘクタール

名古屋市では、1986年（昭和61年）6月10日に四間道周辺を「町並み保存地区」に指定しました。これは、伝統に培われた優れた歴史的景観を保存するために行われたものです。

当該地区の文脈

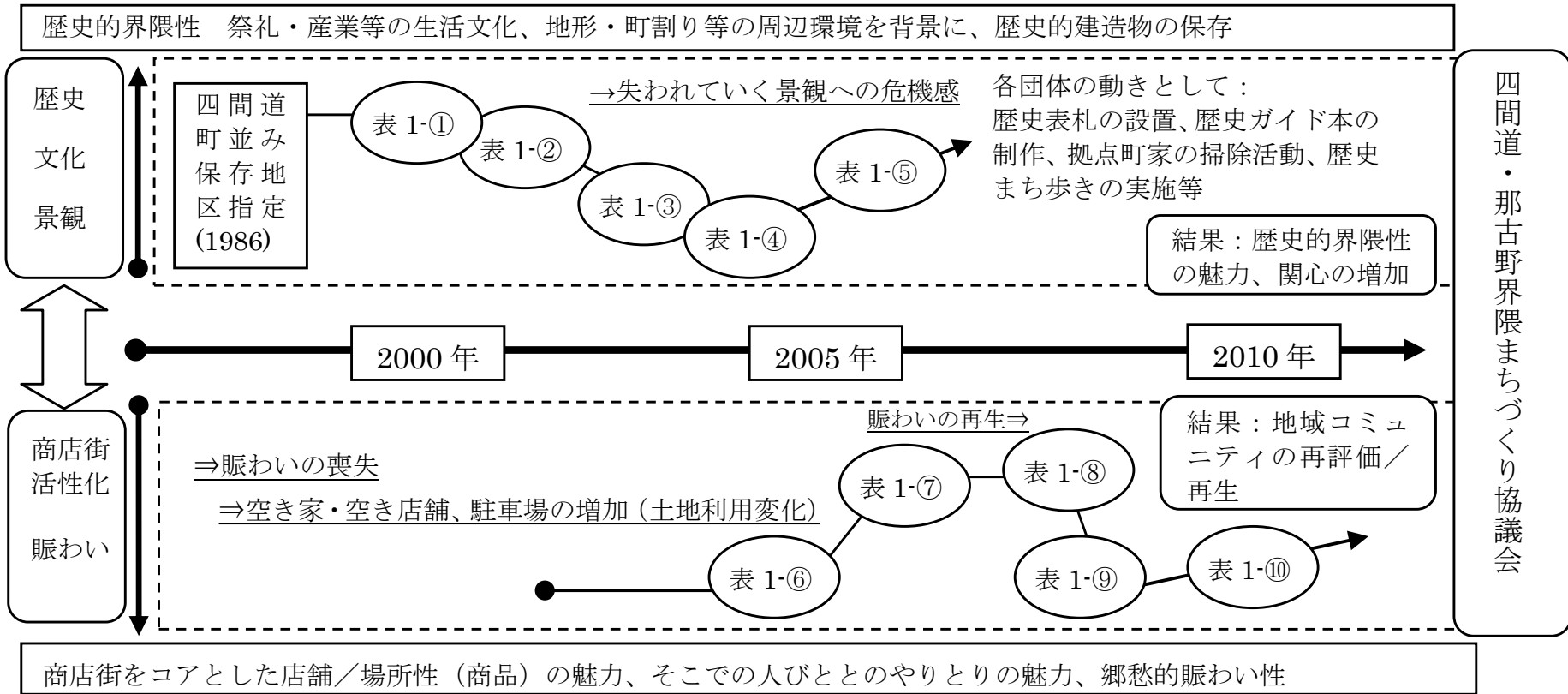
2000年以降のまちづくり団体の活動の系譜

以下は名古屋市の特徴ある区づくり事業で生まれた活動の一環である。当事業は、名古屋市が市内16区の各区役所レベルで各区の地域資源を活用したまちづくりを推進した。このエリアでは、町並み保存地区指定以降の10数年あまり主だったまちづくり団体の登場はなかったが、2000年以降、多様な団体が登場することとなる。

| |
|--|
| ①ものづくり文化の道推進協議会 |
| 設立：2000年4月 区役所を中心に、観光ルートのネットワーク、一般市民への認知、当該地域の方向性を探るものとして立ち上がる。 |
| ②美濃路まちづくり推進協議会 |
| 設立：2000年9月 東海道と中山道を結ぶ「美濃路」に残された歴史的町並みを再生活用し、地域の活性化を図る。 |
| ③堀川文化を伝える会 |
| 設立：2000年10月 堀川を中心とした名古屋の歴史や独自の文化を、広く後世に伝えるために、市民ボランティアが集まり結成した。 |
| ④屋根神フォーラム |
| 設立：2003年4月 幕末頃から名古屋地域の町屋の屋根に祀られるようになった「屋根神様」を、多くの人に知ってもらうため、ガイドウォーキングを実施している。 |
| ⑤那古野一丁目町づくり研究会 |
| 設立：2004年4月 四間道周辺に住む住民が何らかの対抗策として、景観を考える研究会を立ち上げる。 |

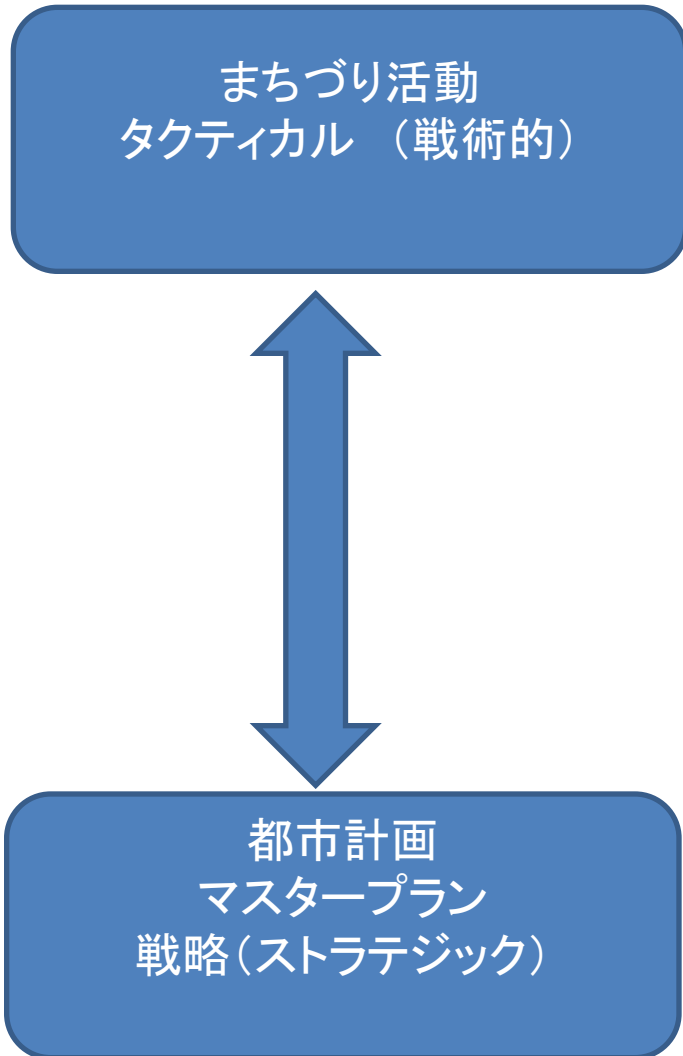
| |
|--|
| ⑥円頓寺げんき会 |
| 設立：2004年10月 商店街を愛する主婦数人が、円頓寺商店街を元気にしようと毎月第一日曜日、円頓寺商店街(東側アーケード)にて「ごえん市」を開催することになる。 |
| ⑦縁側妄想編集室Paw |
| 設立：2005年4月 商店街の外に働きに出ていた40代の女性が地元に戻ってきた際、かつて、自分が知っている賑わいのある商店街に思いを馳せながら、新しい展開を模索する。 |
| ⑧NPO法人ゴンドラと堀川水辺を守る会 |
| 設立：2007年4月 「水の都ベネチアのように、ゴンドラを浮かべて楽しめる堀川にしよう」という願いを込めて発足した。 |
| ⑨那古野下町衆 |
| 設立：2008年3月 アーケード修復事業に対する将来への負担に対する反発から商店街理事会に対抗するための新しい組織として設立される。 |
| ⑩ナゴノダナバンク |
| 設立：2009年10月 家主と借り手の仲介の役割(サブリース機能等)を作り活動を開始する。 |

モデル地区の文脈



円頓寺・四間道・那古野界隈エリアにおいては、歴史的界限性と商店街を舞台とした日常の界限性の二つの物語の流れの中で、多様なアクターが多彩な活動を展開し、その中で、それぞれの物語を形づくりながら取り組みが行われてきた。

近年のまちづくりの進め方



近年注目されている考え方として
タクティカルアーバニズム(戦術的
まちづくり)がある

計画的・戦略的(ストラテジック)な
取り組みに対して、

小さな事業を実験的に展開し、その「成功体験」の「見える化」「見せる化(魅せる化)」を積み重ねていくことで、市民主導で実践的・戦術的(タクティカル)にまちを変えていこうとしている。

2000年

行政からのはたらきかけ



2004年

当該地域の資源(景観・町家等)の喪失



2005年

イベントで地域を盛り上げるための支援組織



2008年

地縁者による新しい組織



2009年

空き店舗を再生する組織の出現



2012年

まちづくりプラットフォームの形成



商店街としての文脈の読み取り

フェーズ1

戦前～戦後

中心市街地の形成
商店街の出現

フェーズ2

1960～70年代前半

商店街群として
消費機能を高めて
いた時代

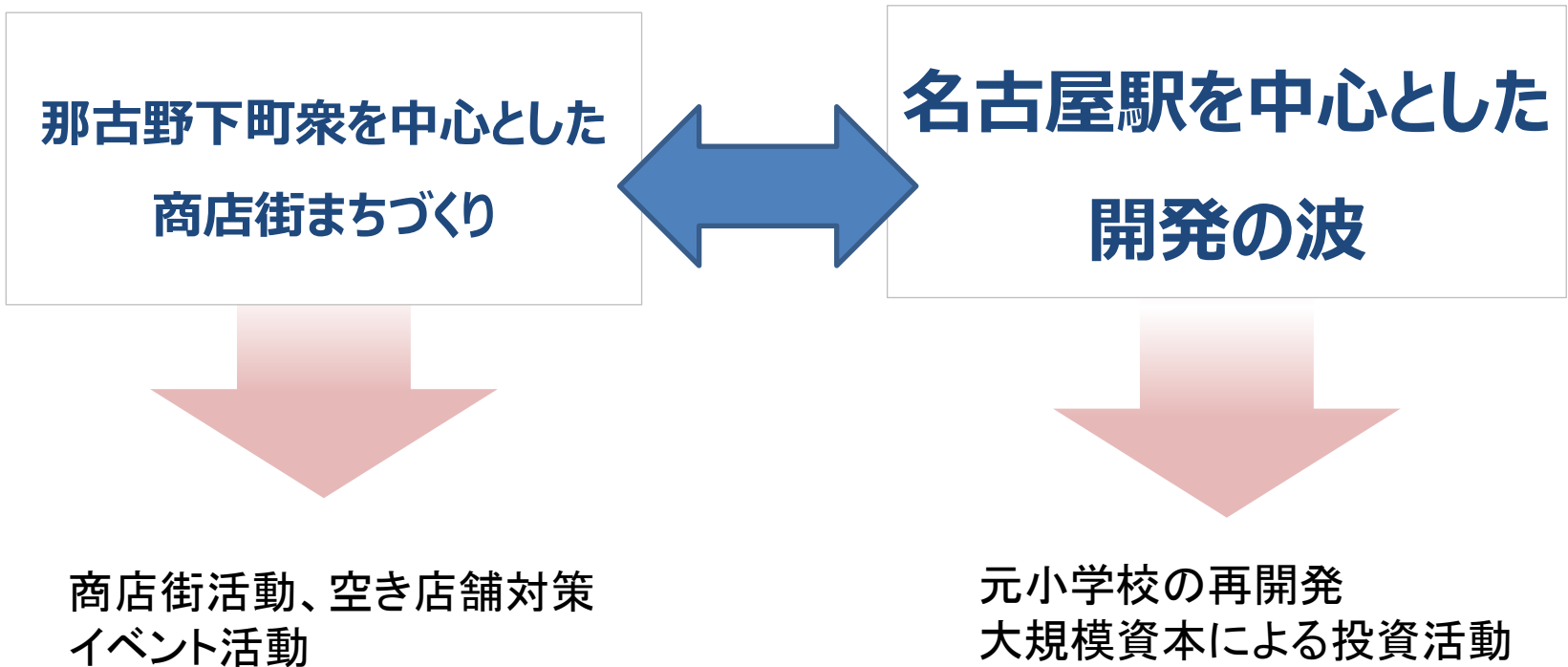
フェーズ3

新しい中心市街地
のあり方

小売機能だけを
メインと
しない商店街像

まちづくりの課題

地区レベルのまちづくりと、都市レベルのまちづくりをいかに融合させていくか。



これからのまちづくりに必要な属性として

地縁者：従来からのコミュニティに属している個人・組織。

志縁者：地域外部に属し市民団体の活動が活発になるべく
コミュニティに貢献する個人・組織。

下町の活性化を推進する「那古野下町衆」の活動が始まる。



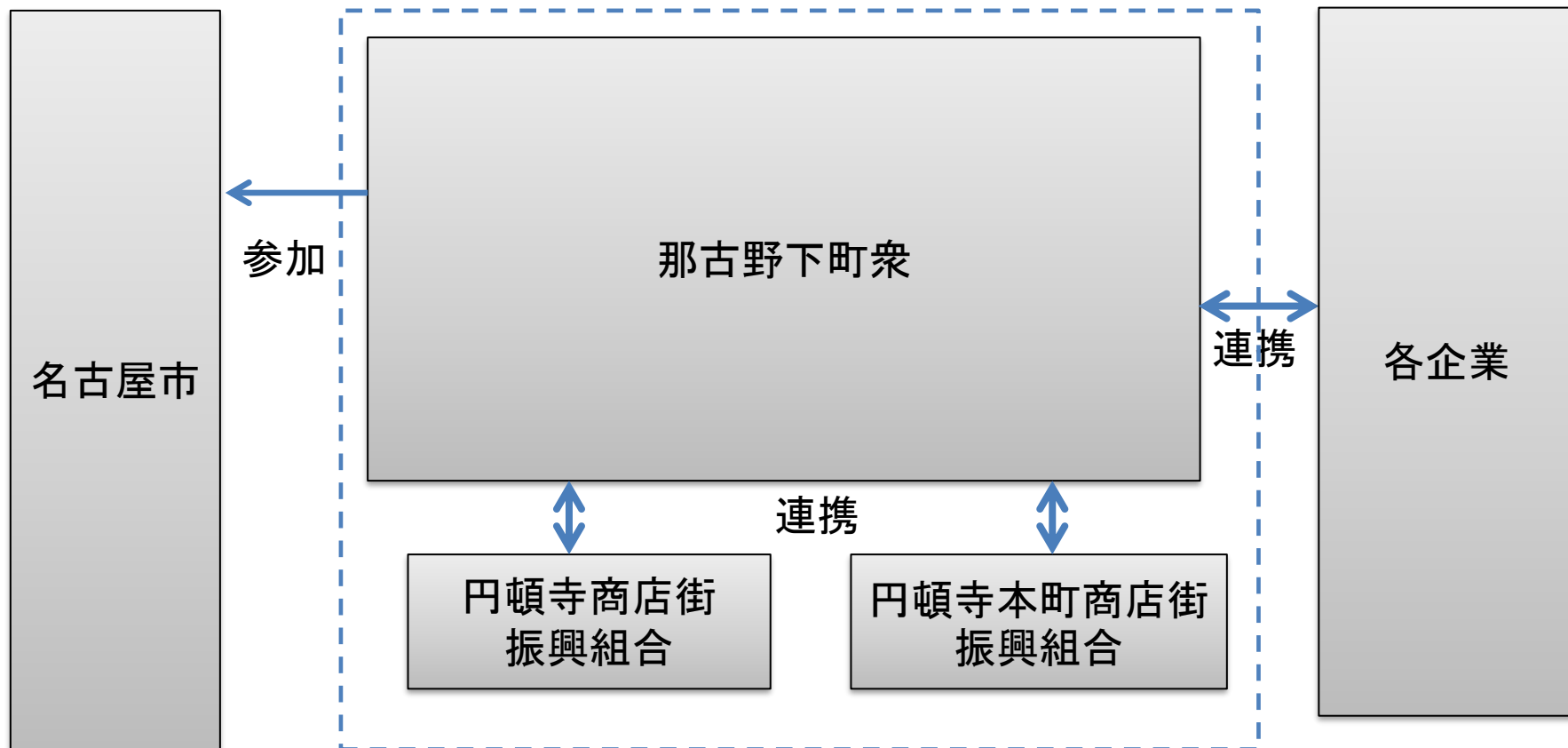
円頓寺や四間道界隈の情報誌「ポゥ」を縁側妄想会議編集室のメンバーをはじめ、円頓寺商店街、円頓寺本町商店街店舗の2代目らが中心となって立ち上げた団体。

メンバーは、商店街関係者だけでなく、名古屋で活躍するクリエイター、大学関係者、学生、コンサルタントら「円頓寺や四間道が好きな人」約20人。



那古野下町衆の誕生商店街への第三者支援

- ◆商店街を中心とするエリアマネジメント
商店街道路利活用、アーケード管理
- ◆情報発信・・・ ホームページ運営、SNS
- ◆イベント・・・ パリ祭、各誘致イベント等
- ◆空き家バンク連携・・・ ナゴノダナバンク事業

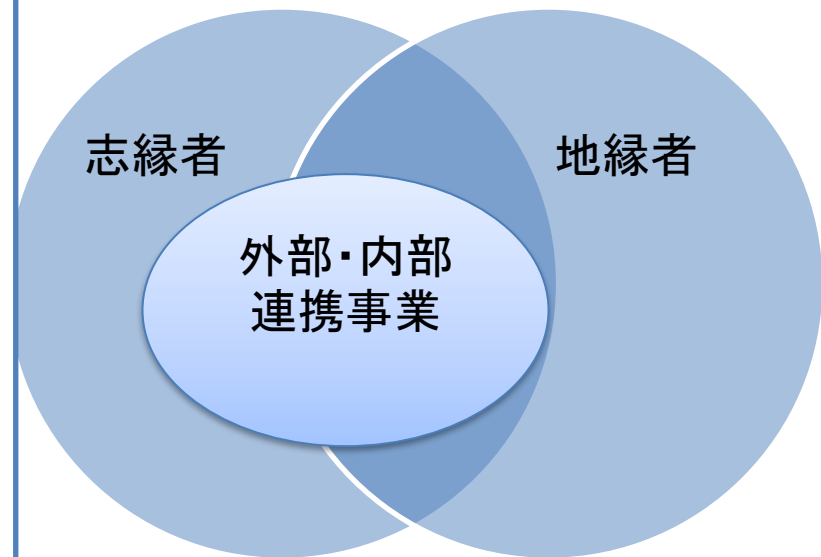


那古野下町衆の活動範囲



那古野下町衆の仕組み

- アーケード事業
建築士、コンサルタントらとともに大規模修繕
- イベント事業
クーポン事業、オリジナル縁日
- 空き店舗事業
活動の中からナゴノダナバンクが独立
- 商店街ルールづくり
商店街ハザードマップ



| I 問題提起 | |
|-----------------|---------------------------------------|
| ①店舗の設え | 店舗内の装飾や改装、店構えについての提案 |
| ②マネジメント | お客を呼ぶための手段等の提案 |
| ③商店街の掟(おきて・ルール) | 商店街として景観・秩序を保つための「掟」づくりを提案 |
| ④那古衆ブランド | 地縁・志縁組織はどのようにあるべきか |
| II 行動企画 | |
| ①マップ制作 | 各テーマに沿った地図の制作 |
| ②イベント企画 | イベントの提案。各商店街・四間道界限で実施されるイベント情報のとりまとめ。 |
| ③空き店舗活用 | 空き家バンクシステムを中心に活動を進めていく。 |
| ④情報発信 | HP 開設・メーリングリスト管理 |

これからの那古衆

○円頓寺秋のバリ祭・クラフトマルシェへの協力
各イベントボランティアチーム統括・イベント事務局支援、スペース提供・SNS運営



昨年度、(株)スペース（会員B候補）の協力で展示・休憩スペースを設置した。

○名古屋駅～名古屋城への導線づくり。



○商店街アーケード下道路活用
歩行者専用道路にむけての提案と活動（植栽計画・オープンカフェの実施）



○なごのキャンパス連携（旧那古野小学校連携）
体育館・運動場活動、eビジネスの振興



E スポーツの大会、その他各種イベントの開催提案と実施

